

2022 年度:こども園自己評価の報告書 桜井谷こども園

評価項目	取り組み状況
<p style="text-align: center;">教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画</p> <p>こども園として特に配慮すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み 等 	<p>「イメージ豊かにのびのびと遊べる子どものための環境づくり」をテーマに園内研究を進めていく。全職種・職員一人一人が、3つのプロジェクト（のびのび外遊びプロジェクト・絵本プロジェクト・お箸プロジェクト）に所属し環境作り・遊びの提供を行ってきた。</p> <p>*人的環境：支援を必要とする子どもたちは、加配がついている、ついていないに関係なくその子自身の困りごとは何なのかを見極め保育・教育を進めていくことを大切に取組んだ</p> <p>*物的環境：園庭に5立米の土山を設置、その他自然物で遊べる環境を設置した。また絵本コーナーを新たに設置するとともに、一人ずつ膝の上で絵本を読んでもらう時間を確保することも継続して行った。</p>
健康支援	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染状況を見極めながら、しっかり感染対策を行う。幼児クラスは室内ではマスクを着用して過ごす。 ・園内での様々な病気の感染状況を保護者にも共有し、ともに感染対策を行ってきたことにより、爆発的な感染拡大は起こらなかった。
安全管理	<p>園庭の遊びの環境が大きく変わったため、自由にあそぶ環境を保ちつつ、危険がどこにあるのかを予測し、子どもたちへの声掛けを行っていった。首から上のケガについては、慎重に観察し病院への受診も行っていった。</p>
食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、「楽しい雰囲気の中で食べる」ことを意識し、ジャズやクラシックなど様々なジャンルの音楽を聴いたり、美しい風景の動画を見たりするように工夫していった。 ・箸の持ち方を遊びの中で取組んでいくことで、3歳児の変化が著しかった。
<p style="text-align: center;">子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園している子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の育児相談は、随時行っていき、必要に応じて保護者との面談を園長が積極的に行っていた。 ・地域支援事業としては、コロナが落ち着きをみせた秋ころから、開放の枠を広げ遊びの場の確保を行っていった。イベントを打ち出すと、たくさんの親子の参加が見られた。
<p style="text-align: center;">教育・保育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現 	<p>10の姿を意識しつつ、今年度は「試行錯誤」にテーマを絞って取り組んでいった。特に「教育保育ガイドライン」を使って環境を整え、声掛けや関りについても具体的に評価していった。</p>
特別支援教育	<p>支援を必要とする子ども達においても、生活習慣面の自立を大切に個別でかかわっていくとともに、障害の名前に惑わされず、本当にそのこども自身が必要な支援方法について試行錯誤していった。</p>

職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほめる」ということにこだわり、園内研究で「絵本」の講座を園長自ら講師となって学びを深めていくことにより、職員全員の意識がレベルアップしていったことを実感した。大阪府の公開保育を受けたことも大きな学び、資質向上に役立ったと思われる。
幼保こ小中の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・評議委員会で中学校の校長先生にご参加いただき、中学校の現状を知る機会にもなっていった。 ・近くの民間園（みどりっこ保育園）に園長が講師となり行くことでともに学ぶ機会ができたたり、園内環境の情報交換をしたり、園庭を開放して一緒に遊ぶなど交流ももつことができていった。
関係者評価の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドライン研修や評議委員会で公開保育を行うことで、園内の取り組みを理解いただき、地域と情報共有し、交流も再開していった。
その他	

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
<ul style="list-style-type: none"> ・多様性の需要 ・自己理解と他者理解 	<p>様々な性や考え方・世界の様子など物的環境をさらに整えていく。</p> <p>自然物に触れることのできる環境づくりの工夫</p> <p>職員自身の人権感覚を磨く</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・試行錯誤できる環境 ・コミュニケーション力の向上 	<p>形にこだわらず試行錯誤（失敗）を楽しめる保育教育環境の充実</p> <p>絵本の読み聞かせを通して、コミュニケーション力やイメージ力を育み、非認知能力を向上させる</p>

令和5年（2023年）3月31日
豊中市 桜井谷こども園
園長 小川深香